

No.	区分	氏名	学部・研究科	内容
1	個人	阿部 智里	文化構想学部	2012年第19回松本清張賞(松本清張の業績を記念した良質な長篇エンターテインメント小説を表彰する公募の文学賞)を『烏に単は似合わない』で史上最年少受賞をした。
2	個人	後藤 駿介	先進理工学部	東日本大震災発生後よりWAVOCの復興支援活動に積極的に取り組み、その後継続的な取り組みとして環境省の『みちのく潮風トレイル』事業に携わった。青森、岩手、宮城、福島の前をまたがる700kmを踏破し、その過程では被災地沿岸の自然歩道づくりや東北の人々の声を広く発信する活動で活躍した。
3	個人	税所 篤快	教育学部	五大大陸ドラゴン桜e-Education project代表。19歳でバングラデシュに渡り、グラミン銀行の研究ラボ「GCC」で初の日本人コーディネーターになる。20歳で独立し、バングラデシュ初の映像授業を実施する「e-Educationプロジェクト」をスタート。現地の大学生パートナーと協力して貧困地域の高校生を国内最高峰ダッカ大学に入学させる。
4	個人	ディーン ロドリック元気	スポーツ科学部	第46回織田幹雄記念国際大会において、槍投げ日本歴代2位となる84m28cmを記録した。ロンドン五輪では日本人として槍投げ種目で28年ぶりに決勝進出を果たした。
5	個人	宮沢 大志	スポーツ科学部	スキークロスカントリー日本代表としてソチ五輪に出場した。2013年ワールドカップ団体スプリント6位、世界選手権リレー8位入賞を果たし、国内外で活躍した。
6	個人	渡部 善斗	スポーツ科学部	スキーノルディック複合日本代表としてソチ五輪に出場した。2013年ノルディックスキー世界選手権ノルウェー・オスロ大会では自身初の表彰台となる3位に入り、日本人選手としては1995年2月の萩原兄弟以来となる兄弟(兄:暁斗)でのワールドカップの表彰台獲得となった。
7	団体	全国早稲田学生会連盟	—	全国早稲田学生会連盟と地方学生の会が中心となって運営するTokyoハイク、地方学生の集いの活性化、稲門ふるさとパーティの開始など大学、地方の活動を活性化させた。また、地域交流フォーラムで在学生の保護者・校友・受験生に学生生活を発表する学生の派遣を行った。
8	団体	まつだい早稲田じょんのびクラブ	—	豪雪地帯である新潟県十日町市松代において、雪ほり(除雪)や学習支援のボランティア活動、集落のイベント運営など、年間を通じて数々のプログラムを実施し、地域との交流を行っている。
9	団体	バレーボール部 男子部	—	全日本大学選手権大会61年ぶり4回目の優勝を果たした(61年年前は9人制)。本部は昭和28年(1953年)に単独で渡米して全米選手権に出場。世界の主流であった6人制バレーを体得し、日本へ持ち帰り6人制のパイオニアである。
10	団体	ハンドボール部 男子部	—	25年ぶりの4回目の全日本学生選手権大会優勝。また創部史上初の関東学生春季リーグ、関東学生秋季リーグ、全日本学生選手権大会の三冠を達成。
11	団体	学生環境NPO 環境ロドリゲス	—	校友の校友による校友のための祭典である稲門祭において、校友と活動をともにし、祭典の成功に多大な貢献をした。
12	団体	早稲田祭2013 運営スタッフ	—	校友の校友による校友のための祭典である稲門祭において、校友と活動をともにし、祭典の成功に多大な貢献をした。
13	特別賞 個人	かもめんたる (岩崎う大/槇尾ユウスケ)	政治経済学部 2002年卒/ 第一文学部 2003年卒	早稲田大学お笑いサークル「WAGE」を小島よしおらと結成し活動。その後、コンビを結成し、『キングオブコント2013』(TBS系列)にて2年連続で決勝進出、悲願の優勝を果たす。
14	特別賞 個人	佐藤 真海	商学部 2004年卒 大学院スポーツ科学研究科 2012年修了	2020年東京オリンピック・パラリンピック招致委員会プレゼンターとしてスピーチを行い招致に貢献した。2013年7月のIPC(国際パラリンピック委員会)陸上競技世界選手権で銅メダルを獲得。
15	特別賞 個人	田中照久	政治経済学部 2002年卒	フィンランド南部ラッペーンランタで行われた「カラオケ世界大会2013」決勝戦で、日本代表として男性部門優勝(日本人初)。
16	特別賞 個人	渡部 暁斗	スポーツ科学部 2010年卒	トリノ、バンクーバーに続く三度目のソチ五輪にてノーマルヒル個人で銀メダルを獲得。ノルディック複合の個人でのメダルは1994年リレハンメル五輪の河野孝典(1991年人科卒)以来20年ぶり2人目の快挙を果たす。また、ラージヒル個人6位、ラージヒル団体5位入賞と大活躍した。

(以上)